

国際理論物理学会議組織委員会
在京委員会（第10回）会合記事

記 事
在京 10
2.26

日 時 : 昭和28年2月26日午後5時～8時30分

場 所 : 日本学術会議会員控室

出席者 : 藤岡, 芥, 小谷, 武藤, 佐藤, 谷, 朝永, 山内, 本田,
各委員
(事務局: 竹下, 吉田, 肥後)

- 議 題 :
1. 委員長経過報告
 2. 京都委員会との連絡報告(肥後司針掛長から)
 3. 初任専門部会の報告(小谷委員)
 4. 外邦との往復通信に関する報告と協議

記 事
在京 10

1. 委員長経過報告

(a) 寄付金に対する免税

「このことについて大蔵省事務当局と話し合ったが、寄付金を集めるのは予算の不足を理由とせず、国際会議の後援について民間の熱が盛り上ったという趣旨であるのが望ましいとの主計局の意見で、免税問題の見通しは良好と思われる。」

(b) 基金の体制

「基金の主体は官庁たる学術会議では不都合であり、同様の理由で組織委員会名を冠することも不適當であるが、別に法人を設立するまでのこともないから、任意団体の形式を整えればよからうとのこと。この団体の会長に荒沢敬三氏を推すことにし、免税の願意書はこの団体名で出すことにしたい。」

(c) 東京都庁との連絡

「香副知事に面会した。都庁には外交関係の係もあり、この種の接待はよく心得ている模様で、外国人70名、日本人140名位の茶会を催すのが適当だろうということになった。期日は14日又は15日。」

2. 京都委員会との連絡報告(肥後司計部長から)

大蔵省の物理国際会議に対する査定方針を説明した。これに対して計画の具体化に伴い科目別配当の変更をお願することになるかも知れない旨申出があった。科目別について次のように意見を交換した。(1) 新金は文部省要求中のものはそのままとするが、もしこれが実現されなかった場合は、JSCの技師費金を振当てることは差支ない。(2) 会議費は一応本会議中のものを考えて、JSCで開催の委員会用にはとってない。(3) 借料及び損料はバス借上の場合、乗車人員はバッヂをつけた人に限定して150名以内とすれば、毎50,000位でいいと思われるが内示済に止め、文部省要求については日本交通公社計画と調整して考慮する。(4) 委員等旅費は連絡旅費として使用出来るようになることを希望し、通訳等を臨時委員として旅費を支弁することも適当と思われる。(5) 印刷費は

小紙委員の意見により予稿は湯川記念館のヴァリタイプで印刷しようと思っているので、それに必要な経費を用紙とか製本費として分別することを検討する。等。

なお、2月本の京都側委員会でも以上の諸点を検討して見るとのこと。上に関連して会場設備として、会場外の来賓者のために競争の中継をしてはとの費が懸念され、競争の進行に差支ない程度で来賓者の便宜を計ることは結構であるという意見が強かったが、具体的な決定に至らなかった。

3. 物性専門部会の報告(小谷委員)

(記 事
租 委 物 3 参照)

(a) 幻灯の使用について

「暗幕を閉めることは季節外非常に暑いことが予想されるので代案として、*day-light screen* の使用、ビラの使用等が試せられた。」 具体的なことは、5月の分科会で実験の上検討することに決定。

(b) 予稿の規模

「日本人参加者の理解を助けるために、なるべく全文に近い予稿を参加者に配布することが望ましい。」

これについては、印刷費の関係、又 *Proceedings* の内容との重複の懸念を考慮して、「なるべく詳しい抄録に止める必要があることが認められた。」

(c) 旅行中の日本人同僚者の数

「少くとも外人と同数との意見が強かった。」

これは全く経費の問題で、寄付金が思うように集まることが前提となることが認められた。

(d) 委員追加

「6名程物性論専門部会委員を追加する必要がある。」

これについては、無制限な委員の増加に対する批判の声もあったが、追加すべき人が尤もであると認められるので了承。

又、旅費については、前会開催に当って定額を超過することに決定、

(6) 物性関係会場の日程

「前会で案を決定した。」

(記事 物性 委員会 村録参照) これを了承。

なお、予稿の中に日本国内における関連分野の研究状況概要を組み入れること(1952.4.25「小委員会(物性関係)」記事参照)は再確認されたが、素粒子会場では、これを本会録の討論の面に取り上げる時間的余裕がない見込であることが報告された。

4. 外部との往復通信に関する報告と協議

外信 7 について報告があり、次の通り関連事項が協議、決定された。

(a) 国内学会からの講演希望(同資料頁目Aの1)

(1)の日本化学会については、先方からの希望の Mott, Coulson, Flory, Seitz, Mullikenのうち Mott と Seitz は講演の先約が沢山あるが、残りの Coulson, Flory, Mulliken については考慮することに決定、又電気学会からの申込については同様 de Boer, Bohr, Slater, Bozorth のうち Bozorth を考慮する。

(b) Critchfield の参加申込

朝永委員が Critchfield について質疑することを了承。

(c) 以上の外近畿の外信として Edwards 科学器械会社の展示会開催申込(外信 8 頁目Aの2参照)について研議があり、この種の催しを行うことは、日本側参加者乃至京都大学を対象と考えれば有意義であり、日本側でも地元の藤澤製作所などにも話しかけてこれに参加させることは、寄村その他の面においても有効なことが考えられる。

(d) Heisenberg から朝日新聞主催講演依頼通知